

『オッハヨっ♡
カズキ!!』

「エリカっ!!
お前こんな所でいきなり
抱き着いてくんなんっ!!
それにその…
当たってるって!!」

『え、
この位フツーじゃん?
それとも嫌だったの?
カズキ♡』

「嫌って訳じゃ…
人前だとそういうの
恥ずかしいだろ」

『フッフ
照れ屋さん
なんだから♡』

エリカと俺は幼馴染
子供の頃からエリカは
積極的にスキップを取ってくる

ハーフである
エリカの家では
割とそれが普通のこと
らしいが

大学生になった今でも
エリカのこの
異様に近い距離間には
慣れないいや
むしろエリカが
大人になるにつれて
俺はドギマギして
しまっている

エリカのことは好きだ
でも幼馴染の関係だと
中々恋愛の話は
切り出しづらい
それにきつと
エリカも俺のことを…

そう思って
具体的な関係には
踏み出さないまま
俺たちは少しづつ
大人になっていった

そんなエリカと
連絡が付かなくなったのは
1年ほど前だった

まああいつのことだから
どこかで良い男でも見つけて
気ままにやっているんだろう
程度に思っていたが

心にもやもやは
残ったままだった

そんなある日
自宅に1枚の
DVDが送られてきた
俺宛の郵便物に
心当たりはなかったが
興味本位で俺は
それを再生した



ん〜…

べちょ

べちょ

んぐ〜…

「ほらもっと♡
恋人みたいに
チュウしてよ♡
お姉ちゃん♡」

あられもない姿で
拘束された
エリカの姿だった！

「ほらほらお姉ちゃん♡
折角撮ってるんだから
もっと笑わないとw」

「アナタこんなことして
許されると思ってるの？
あんたみたいな子供
ホントなら組み伏せ
られるんだから！」

「もっ怖いなあw
街で見かけたときは
もっと優しそう
だったのにw」

目を疑った…
そこに映し出されて
いたのは紛れもなく

脳の血管が
ドクドクと脈打つのが
分かった！

俺は今
とんでもないものを見ている

そう直感したが俺は…
はじめて見る
エリカの裸に興奮していた

しかしそれ以上に
気になることがある

一体これは
どういう状況なのか…
一緒に写っている子供は
一体どこの誰なのか…

再生した手を動かすことが
出来なかった

「じゃ〜んw
今日からパパに頼んで
手に入れて貰った
新しいお姉ちゃんを
調教していきま〜すw
ハーフでおっぱいも
この通りw」

「ちよつと!!
気安く触らないで!!」

へらへらしながら
自らの体を弄る男を
睨み返し威嚇する
エリカだが…
そんなことは無駄だと
俺でも分かった

「全く、随分うるさいな〜
まあそんだけ騒ぐなら
早速だけど！」

「教育してあげないとね
ボクのオチ●ポで♡」

それまで強気だったエリカの表情が
一瞬で焦りと不安でひきつったのが
分かった。それもそのはずだ
子供のカラダには不釣り合いなほど
大きくゴツゴツした逸物…

一瞬でわかった
コイツはこの性器で今まで何人もの
女性を堕としてきたんだ！

身動きが取れず
ただただ女性器を蹴られるエリカ！
先程までとは打って変わり
エリカは顔を伏せて涙を浮かべながら
男の腰使いにあわせて甘い声を漏らす…

「うう…カズキ…カズキい…」

「あれ？wもしかして
お姉さん彼氏いたの？w
そりゃあ悪いことしちゃったねw」

画面の向こうから
僕の名前を呼ぶエリカの声がする！

その時ようやく実感した僕は今
好きな人を目の前で犯されているんだ

ずっと一緒に育ってきて
可愛らしくて悪戯好きな
俺の好きな人は…

見ず知らずのガキに
汚されてしまった

うおづら♡♡

んんん♡♡

おっ♡

ん

ふっ

「それじゃあ今日から
僕のペットになれるように
いっぱい調教してあげるからね♡」

「彼氏のえーとカズキ君？
と居るより幸せにして
あげるからね♡」

エリカの女性器から引き抜かれた
大きなペニス…絶頂の余韻で
全身を痙攣させるエリカ

この後行われる「調教」が
どんなものか想像するだけで
嫌な汗が止まらなかつたが…
何故か僕はその続きが見たくて
画面の前から離れられなかつた…

最初の映像は途切れ
そこから始まったのは
男による悪趣味な
「調教」の日々だった！

調教2日目

ハハ♡

ハハ♡

ハハ♡

ハハ♡

「ほらほら…
いったらまた重り追加しちゃうぞ…☆」



男はエリカの乳房に興味があるらしく

調教7日 女性器に玩具を固定され
絶頂するたび乳首に重りを
ぶら下げられたり！

またある日には母乳を出せるようにと
あらゆる器具で乳首を刺激され！

調教24日目

調教71日目

そして調教の間には
男の欲望のままに
中出しを受け入れさせられる
DVDはそんな生活が
何日にも渡って記録されていた

そして日付は飛び
記録映像の最後！

教254日

「よし良いぞエリカ♡
おチ●ポ掃除良々出来ました♡」

『あぶうう…♡様あ…♡』

『上手に出来ましたからあ…♡
そろそろおチ●ボ解禁おねがいしましゅう♡
安定期過ぎたらチニハメって
約束だったじゃないですか♡』

下品な衣装を纏い
物欲しそうな顔で
ち●こに話しかけるエリカ
その体は子供を身籠っている
女性の物だった

日付が飛んだ間に
エリカは妊娠したのだ

『んゝそんな誘いじゃ全然ダメだよw
全くバカな豚だなゝ
もっと下品な言葉選んで
チン堀り口上しろっつてんだろ？w』

『ううう♡
チニハメ用豚女のエリカの
妊娠マ●こ♡♡様の
バキバキチ●ボ見て
マニ汁タラタラなのでえ♡
いっばいバニハメして
お説教してやってくりゃあら♡♡』

『うゝゝゝwwこりゃゝ見てるカスキ君も
ドン引きだろうねw
そうだ！カスキ君に
エリカお姉ちゃんがどんな風に
変わっちゃったのか紹介してあげるね♡』

『まずはおっぱい♡
最初は97cmのGカップだったけど』

『妊娠&調教の結果
120cmのKカップに
なりましたゝwしかもほらw
母乳もいっぱい出るんだよw』

かがんだ体勢のまま
乳首を乱暴に捻り上げられると
エリカのだらしなく育った乳房から
噴水のように母乳が飛び散る

家畜の様な扱いを受けているのに
エリカはブルブルと乳を揺らし
母乳をまき散らしながら
悦楽の表情を浮かべる



「ほらーマ○」はどこが感じるの？
ちゃんとカズキ君に実況しながらセックスだろりバカ豚！！

「はいいいい♥ポルチオおおお♥
赤ちゃん入ってるトコの入りのい
様のチンチ○でゴリゴリしゃれるの
しゅきいいい♥あつヤツベえ♥
これイグッ久々のポルチオ刺激ヤツツバいっ
イグイグう♥」

「イク時はどうすんの？Wちゃんとやれよ」

「うっうっうっ♥

ぶぶよおおお♥♥♥
ぶぼっ♥ぶひよおお♥

様ばんざあうい♥
アクメさせていただきまひゅううー♥
ぶひよおおお♥」

ふひふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

A-

A-

いゅん
ぽん

いゅん

いゅん
ぽん

あう

うん

うん

うん

うん

身重の体にも関わらず
豚の鳴き真似をしながら
母乳と愛液をそこら中にまき散らし
全身運動でち○こを摩擦するエリカ
余程厳しく騎けられたのだろうか
とんでもない醜態をカメウに
収められているのに
一心不乱に豚の鳴き真似をしながら
絶頂し続けるその姿を見て俺は察した

「うへへWチ○を擦るの上手になったね
ご褒美にベッドいこうかW
カズキ君に見せつけながら
いっぱいイかせてあげるからね」
「あうっ♥」様大ひびきさる♥
豚マ○で誠心誠意
ご奉仕いたしました♡♡♡

もうここに写っている女性は
僕の知っているエリカではない
そこに映っているのは—

「ほら豚！忘れてるぞW
元カレカズキ君にメッセージ♡」

「はいさ♥」

やばい

うん

肉欲に溺れた「二匹の雌だった

『カズミ♡見てるかな♡』『メーねっ私
もこの『様のおち○ちゃん無しじゃ
生ぜられない体になっちゃったの♡
だからもう私のことは忘れてね♡』

あゝ♡

はぁ♡

はぁ♡

ん♡

はぁ♡

ふっ♡

『あつてもあゝもし私のことを忘れられないなら…
様宛に感謝の言葉と
続編を送ってもらうようにお願いしてみてね♡
様とっても優しいからあゝ…
さつとこのビデオよりもエッチなの撮って
送って下さると思うよ♡
それでいっばいちゃん♡』『シ』『シしてね♡』

『それじゃあ
『様のおち○んお待たせしちゃうってるからあゝ…
変態中出し交尾続けるね♡』

はぁ♡

『うへへwwwサイコーだよエリカ♡
まだまだ出せそうだから
このままもう一回挿れようか♡』

『はい♡♡様あ…♡
お腹の子共々『様に飼って頂けて
とっても嬉しいでしゅう♡
もっといっばい交尾してしてえ♡♡』

好きだった人の変わり果てた姿、
男としての敗北を目の前にして
僕は涙と勃起が止まらなかった

好きだった、
こうして取り返しのでなくなる前に
行動していればと思うと
悔しくて悔しくてたまらなかった、

もう僕にはエリカとの未来は
なくなってしまったんだ

こんな思いをするならあの時
もっと勇気を出していれば
良かったのに

ひゃあはなり♡

そんなことを考えても
もう

もう何もかも遅すぎた